

- 助手としてダンネパーク図幅地域の調査に参加した、彼は自転車を使った野外調査の興味ある記録を「ある地質学者の思い出：野外調査から(A geologist remembers; memories of fieldwork)」, NZ地質学会雑報102, 1999としてまとめている。
- 8) アルバート(バート)・マティソン・クエンネル Albert (Bert) Mathieson Quennel (1906-85). MSc, AOSM. 第二次世界大戦中は中東で参戦、これが後にヨルダンで地質研究に従事するきっかけとなる。タンガニカ地質調査所1948-60年、後半は所長。1965-69年ナイジェリアとスーダンへの国連ミッションに参加。1971年以来イギリスで引退生活。アフリカの地質、ことにアフリカ-アラビアのリフト系について詳しい。
- 9) デーブ・ブラウン。後にオーストラリア国立大学地質学教授。キャンベラで引退生活を送っている。
- 10) フランシス(フランク)・ジョン・ターナー(1904-85)。MSc, DSc. 1926-46年オタゴ大学地質学講師, 1946-71年カリフォルニア大学パークレー校地質学教授, 変

成岩岩石学やペトロファブリックスについて多数の教科書を書いている。

- 11) ジョン(ジャック)・マーリック(1891-1978). MA, DSc. 1920-53年 NZ地質調査所で古生物学担当。軟体動物研究で著名で、論文やモノグラフ多数を書き、H. J. Finlayと協力してNZの第三紀生層序学の基礎を築いた。
- 12) この仕事は後にNZ地質調査所彙報41号テ・クイチ図幅地域(J.マーリック, 1946)として刊行された。
- 13) 修士論文のタイトルは、「北カンタベリー、グレイ山地域の地質(1939)」The geology of Mount Grey district, North Canterbury, MSc thesis, 1939. この論文は後に同じタイトルでTransactions of the Royal Society of New Zealand 71 (2) :103-127に印刷公表された。

MASON Brian and NATHAN Simon (2001) : From Mountains to Meteorites (Part2). [Translated into Japanese by KAWACHI Yosuke].

<受付：2001年10月19日>

お知らせ

知っていますか？ あなたの町の地質

—近畿の地質図展—

日 時：2002年2月16日(土) - 17日(日)
9時30分 - 16時30分 展示のみ3月10日まで
主 催：産総研 地質調査総合センター 大阪市立自然史博物館・地団研大阪支部
場 所：大阪市立自然史博物館 本館2F(大阪市東住吉区長居公園1-23 TEL.06-6697-6221)
参加費：無料。ただし入館料(大人300円, 高校生200円, 中学生以下無料)が必要です。

・近畿地方産出の化石・岩石・鉱物の展示
体験コーナー(16日と17日のみ)
・化石のレプリカ作り(アンモナイト)
・ペットボトルを使った地盤の液状化実験
・鳴り砂を鳴らそう!!

ホームページは
<http://www.aist.go.jp/GSJ/Info/event/osaka2002/index.html>

展示内容(2月16日から3月10日まで)

- ・地質図って何? 地質図の読み方、書き方ほか
- ・近畿の地質図 大阪・奈良地域の5万分の1地質図ほか
- ・地質汚染図 地球化学図ほか
- ・活断層図 50万分の1活構造図, ストリップマップほか
- ・重力図 重力異常図
- ・鉱物資源図 50万分の1鉱物資源図ほか

同時開催 地球科学講演会

近畿地方の地殻変動を読み解く —近畿地方の活断層調査と活構造図—

講師：水野 清秀(産総研 活断層研究センター)
日時：2002年2月17日(日) 14時-15時30分
場所：大阪市立自然史博物館 本館1階 講堂